

平成23年度関東ブロッククラブミーティング2011開催報告

日時：[第1日目] 平成23年10月29日(土) 12:30～17:00

[第2日目] 平成23年10月30日(日) 13:00～16:50

会場：山梨県男女共同参画推進センター(ぴゅあ総合) 山梨県甲府市朝気1-2-2

内容：

[1日目]

- (1) 開会プログラム
- (2) 基調講演「総合型地域スポーツクラブの理念と課題」
- (3) ラウンドテーブルディスカッション
〈テーマ〉
 - ① 会費設定・受益者負担
 - ② 運営スタッフの確保
 - ③ 活動場所の確保
 - ④ 有効なプログラムサービス

[2日目]

- (1) 開会プログラム
- (2) 基調講演「スポーツ基本法について」
- (3) グループディスカッション
〈テーマ〉
 - ① 行政との連携・協働
 - ② 我がクラブの将来像
 - ③ クラブマネジメントの課題

【概要】

今年度より関東ブロッククラブミーティングは、関東8都県の持ち回り開催となり、初年度は、山梨県男女共同参画推進センターにて2日間にわたって開催された。1日目は、関東ブロックの創設支援クラブを対象に69名の参加があり、2日目は、主に自立支援クラブ及び都県総合型クラブ連絡協議会加入クラブを対象に102名の参加があった。

本ミーティングでは、1日目の趣旨として先進クラブ関係者からの情報提供等により、クラブ関係者が抱える諸問題を明らかにし、問題解決の糸口を探るための情報共有化を図るために、「総合型クラブの理念と課題」をテーマに富山県のNPO法人新湊カモンスポーツクラブの南木恵一氏を招いて基調講演、続いて4つのテーマに分かれてラウンドテーブルディスカッションが行われた。2日目の趣旨としては、関東ブロック内のネットワーク強化及び交流活動を通じて、クラブ間、都県総合型クラブ連絡協議会間の連携・協力体制を促進するために、まずは今年度制定された「スポーツ基本法」を理解するために、文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課スポーツ連携室の森岡裕策室長を招いて基調講演、続いて3つのテーマに分かれてグループディスカッションが行われた。

【基調講演】テーマ：「総合型クラブの理念と課題」

講師：NPO 法人新湊カモンスポーツクラブ プロジェクトリーダー 南木恵一氏

南木氏よりクラブ理念の話題を中心に講演があった。以下、講演のポイント。

〈何のためにクラブを立ち上げたのか？〉クラブは行政から言われたから立ち上げたのではなく、地域でクラブを立ち上げるには目的があったはず。今一度、原点に戻ってクラブ関係者で再確認し、共有していくことが重要。

〈現代社会に見られる課題〉今の小学生はみんなスポーツを楽しんでいるか？中学校3年生の夏休み以降のスポーツ環境は？等々。これらの課題を地域で解決していくことが総合型クラブの役割に求められている。

〈クラブ運営に必要なこと〉全てのクラブ員が理念を共有することが大切。また、クラブの事業で目的がどれくらい達成できたのか評価していくことが重要。そのためにマネジメントが必要であり、クラブマネジャーの存在が必要。

〈地域に根ざしたクラブになるために〉クラブ理念を明確にし、地域の経営資源（人、物、金、情報、時、文化）を最大限に活用し、行政や他団体、学校との連携を図り、地域のニーズを取り入れていくことが必要。

〈クラブの方向性〉ミッションは組織の存在目的。ビジョンは組織の将来像。単年度計画、中長期計画の策定が必要。

〈マネジメントサイクル〉事業を回すために、Plan→Do→Check→Action のマネジメントサイクルの導入が必要。また、新たなマネジメントサイクルとして計画前の Assessment が必要。

〈スポーツの原価意識と助成金・補助金の考え方〉水と空気とスポーツは0円ではない。受益者負担とスポーツにお金が掛っていることの理解が必要。近年、全国の各クラブでは、教室・事業の原価計算を行っている。助成金とは「成ることを助けるお金」。つまり自立できるまでの手助け。公のお金であり、一部の人たちの活動のためだけに使われるのではないということを理解。

〈クラブ設立までの5つのステップ〉ステップ1「現状把握」→ステップ2「合意形成」→ステップ3「キーパーソンの発掘」→ステップ4「設立準備委員会」→ステップ5「設立総会」の順で段階を踏んでいく。

〈総合型クラブへの期待とNEXT10新しい一歩〉「新しい公共」の形成とその役割、トップスポーツと地域スポーツの好循環の創出、学校と地域スポーツの連携（文科省「スポーツコミュニティの形成促進」事業）、スポーツ基本法、スポーツ基本計画。



【ラウンドテーブルディスカッション】

はじめに全体で参加者の緊張をほぐすためのアイスブレイクが行われ、その後に4つのテーマに分かれたラウンドテーブルディスカッションが行われた（70分×2回）。実施形式は、参加者が互いに顔の見える形の円型で各テーブル10名程度、進行役はクラブ育成アドバイザーが務め、はじめに先進クラブの発表者からテーマに沿った話題提供があり、その後テーブル内で全体のディスカッションが行われた。

以下、テーマ別の参加者の意見等。

〈①会費設定・受益者負担〉

やはり会費の設定方法で多くの参加者から質問があり、どの位の会費設定が適当なのかが話題となった。自主運営を前提とすれば、原価を考えると、また、受益者負担については、経費がどのくらい発生しているかを参加者に正確に伝えていくことが重要である。

〈②運営スタッフの確保〉

運営スタッフを確保していくためには、クラブの目標、理念を明確にし、みんなで作るクラブということを前面に出し、協力者を募っていくことが重要である。

また、一人でスタッフを集めることは難しい。クラブ全体で取り組んでいくことが必要。



〈③活動場所の確保〉

本当に施設が空いていないか確認が必要。使いたい時間が空いていないのでは。実際の活動状況を把握することでもっと利用できる可能性があることを確認。また、活動場所を提供してくれる学校や地権者に対しては、ギブアンドテイクの考え方が必要。どうしても屋内施設がなければ、外で実施できるスポーツ種目の検討も必要。

〈④有効なプログラムサービス〉

プログラムはアイデア次第で無数に考えられる。失敗を恐れないチャレンジ精神も必要。主婦層に人気なのが、ピラティスなどのフィットネス系の種目。プログラムは会員からの要望を聞くことも重要である。レギュラープログラムのほかにシーズンプログラムの設定なども考えられる。

[2日目]

【基調講演について】

「スポーツ基本法について」と題して文部科学省スポーツ・青少年局 スポーツ振興課スポーツ連携室森岡裕策室長からご講演をいただいた。



平成23年8月に施行された「スポーツ基本法」。それに関連した今後のスポーツ施策について、わかりやすく説明していただいた。特に、法の中で「地域スポーツクラブ」と記されている中に「総合型地域スポーツクラブ」が含まれていること。スポーツ立国戦略の概要にある5つの戦略を実行するために、総合型地域スポーツクラブが果たす役割が重要な位置づけにある旨の説明が印象に残った。

質疑応答も会場から積極的な質問があり、参加した人たちの理解度が深まったことがうかがえた。

【グループディスカッションについて】

下記の3つのテーマを前半後半で2か所のグループでディスカッションに参加できる方式で実施した。コーディネーター役は、SC全国ネットワーク各都県代表委員が務めた。

① 行政との連携・協働

行政との連携が円滑なクラブと、行政側の理解度の低さから困っているクラブに相当な格差があることが鮮明になった。

② 我がクラブの将来像

会員の確保、自主財源の確保、後継者育成など様々な事案が話題になっていた。将来像という分科会ではあったが、現時点の各クラブの課題について意見交換が活発に行われた。意見交換の中で、課題解決方策のヒントを得たクラブもあり充実していた。



③ クラブマネジメントの課題

この分科会も各クラブの現在の課題についての意見交換が多くあった。マネジメントの課題ではあるが、クラブの将来像と同じ内容の話題が多くあった。

【まとめ】

2日目の基調講演では「スポーツ基本法」について、文部科学省・森岡室長から丁寧な説明を受け、質疑応答も活発な意見交換になった。分科会について、設立間もないクラブにある



課題を多く聞くことができた。すべての分科会を通して、この場に設立準備中のクラブと設立後5年以上経過したクラブ関係者が同席していたらお互いにもっと有意義な分科会になると感じた。ブロックミーティングの開催方法も根本的に検討する時期になったことを強く感じた。

(報告：関東ブロック地方企画班員 加藤裕之 <1日目担当>、
SC 全国ネットワーク群馬県代表委員 小出利一 <2日目担当>)